

NOMURA

NOMURA

デット・インベスター・プレゼンテーション

2011年3月期第1四半期 決算説明資料

野村ホールディングス株式会社

2010年7月

プレゼンテーションの概要

- エグゼクティブ・サマリー
- 2011年3月期第1四半期決算の概要
- 資本、流動性およびリスク管理
- 最後に
- Appendix

本資料は、米国会計基準による2011年3月期第1四半期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。本資料は、2010年7月30日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

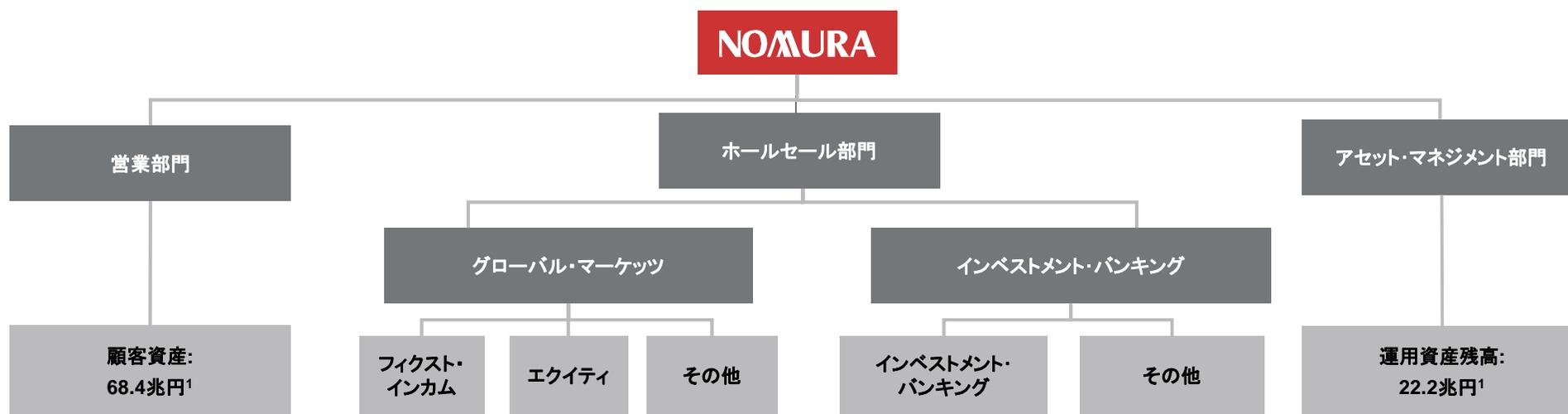
- 1 エグゼクティブ・サマリー
- 2 2011年3月期第1四半期決算の概要
- 3 資本、流動性およびリスク管理
- 4 最後に
- 5 Appendix

エグゼクティブ・サマリー

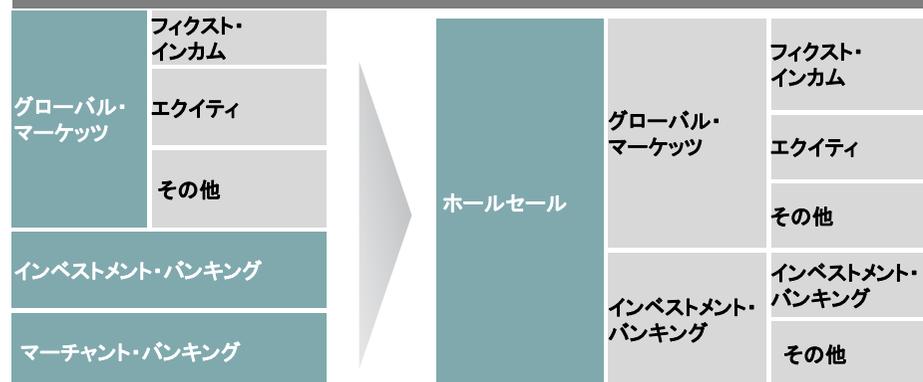
- **市場環境の悪化や事業基盤拡大に伴う投資の影響を吸収しつつ5四半期連続で純利益確保**
 - 第1四半期収益は前四半期比7%減、前年同期比13%減
 - ホールセール部門は、クレジット・スプレッドの急拡大、ボラティリティの急上昇といった市場環境の急速な変化を主因に前4四半期比36%、前年同期比49%の減収。顧客基盤は引続き拡大基調
 - 営業部門は、厳しい環境下にあって、顧客ニーズにフォーカスした結果、資産流入増を果たし、前4四半期比16%の増収。グループの成長の基礎となる安定収益エンジンとして寄与
 - アセット・マネジメント部門は前4四半期比横ばいとなる181億円の収益を達成し、市場サイクルに左右されない事業の安定性を発揮
 - 引続き経験豊富なトップレベルの人材の流入続く
- **急速な顧客基盤拡大に伴い米国およびアジアにおける事業基盤拡大が本格化**
 - 米国における顧客オンボーディングの進捗：ISDA締結先数は前四半期比35%増加
 - 東京証券取引所・ロンドン証券取引所に続き、アジアの各株式取引所における市場シェアが上昇
 - インベストメント・バンキングでは大型M&A案件にかかるマンデート獲得
- **強固な資本基盤および潤沢な流動性を堅持、不透明な市場環境に対処した慎重なリスク管理**
 - 2010年6月末現在のTier 1（ほぼ全額が普通株式）比率16.9%、業界トップレベルの資本水準は競争上の優位点
 - 流動性プール水準は前四半期比20%以上増加し、660億米ドルに。ファンディング環境にストレスのかかった状態を想定したうえで12ヶ月間に期限の到来する債務額を大きく上回る水準を確保、総資産対比では約17%に達する水準
 - 国内の安定調達基盤を支えとしつつ調達の通貨・地域分散化を推進
- **統制のとれたリスク管理・流動性の高いバランスシート**
 - 2010年6月末ネット・レベル3資産（レベル3デリバティブ負債控除後）はTier1資本対比42%
 - 保守的な信用リスク管理：デリバティブ取引における無担保のカウンターパーティー・エクスポージャーの9割近くは投資適格向け
- **厳格な経費水準管理**
 - 厳格な経費管理によって、グローバルな（とりわけ米国での）プラットフォーム投資にかかわらず支出をコントロール

リーディング・インベストメントバンクの構築

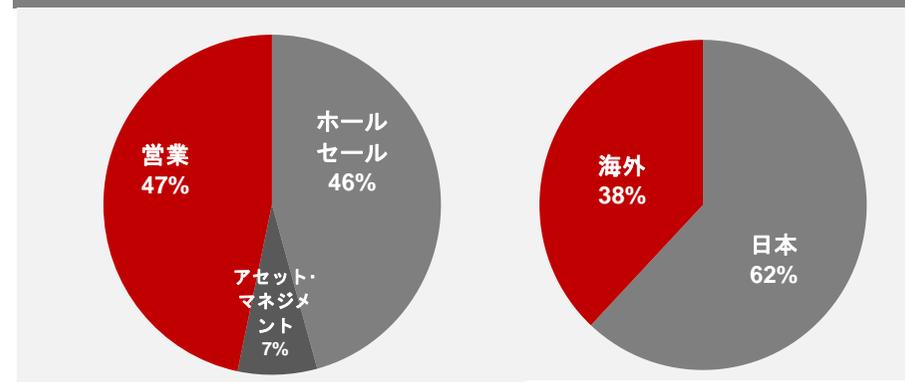
- 総資産33兆9,351億円¹、27千名¹を超える従業員によってグローバルに展開、海外47都市²のオフィスを通じてフルラインの投資銀行・アセットマネジメント、ブローカレッジ業務・サービスを提供
- グローバルなプレゼンスと経験、幅広い品揃え、強固なバランスシートと業界トップクラスの資本基盤
- 顧客サービスの向上のため、2つの相互補完的なビジネスユニットを統合し ホールセール 部門を組成。営業部門およびアセット・マネジメント部門はグローバルな投資銀行として展開するうえでの安定事業基盤



セグメント変更(2010年4月以降)



部門・地域別の収益(2011年3月期第1四半期)



1. 2010年6月末
2. 2010年3月末

- 1 エグゼクティブ・サマリー
- 2 **2011年3月期第1四半期決算の概要**
- 3 資本、流動性およびリスク管理
- 4 最後に
- 5 Appendix

2011年3月期第1四半期決算の概要

ハイライト

- 収益2,598億円、税前利益65億円、純利益23億円
- 営業部門およびアセット・マネジメント部門は堅調に推移、欧州を中心に厳しい市場環境やグローバルな基盤拡大投資の影響からホールセール部門の業績は相対的に低下
- 米国事業の構築等ホールセール部門での統制のとれた投資の結果、顧客基盤は各地域で拡大するなど上向き基調
- 5月初めの市場ディスロケーションをうけて、積極的にリスク量を縮小、スプレッドの急激な拡大・欧州のソブリンの流動性低下によるマーケットメイクのための在庫ポジションからの損失は限定的
- 経費管理の徹底：非金融費用は前年同期比5%減

(単位：10億円)

	2010年3月期 第1四半期	2010年3月期 第2四半期	2010年3月期 第3四半期	2010年3月期 第4四半期	2011年3月期 第1四半期
収益合計(金融費用控除後)	¥298.4	¥300.0	¥274.5	¥277.9	¥259.8
税前利益	¥31.4	¥27.3	¥18.0	¥28.6	¥6.5
純利益 ¹	¥11.4	¥27.7	¥10.2	¥18.4	¥2.3
Tier 1比率	12.7%	13.3%	17.8%	17.3%	16.9%
レバレッジ・レシオ	17.8X	17.1X	14.1X	15.2X	16.1X

1. 野村ホールディングス株主に帰属する純利益

第1四半期の収益内訳

収益合計(金融費用控除後)

	2011年3月期 第1四半期	前四半期 (2010年3月期 第4四半期)	%	前年同期 (2010年3月期 第1四半期)	%
営業部門	1,110億円	955億円	+16.2%	954億円	+16.3%
アセット・マネジメント部門	181億円	180億円	+0.7%	187億円	△2.8%
ホールセール部門	1,086億円	1,684億円	△35.5%	2,117億円	△48.7%
3セグメント合計	2,377億円	2,819億円	△15.7%	3,258億円	△27.0%
その他 ¹	327億円	△94億円		△371億円	
営業目的で保有する投資 持分証券の評価損益	△106億円	54億円		97億円	
収益合計 (金融費用控除後)	2,598億円	2,779億円	△6.5%	2,984億円	△12.9%

1. 「その他」には、負債の時価評価益139億円を含む

ホールセール部門

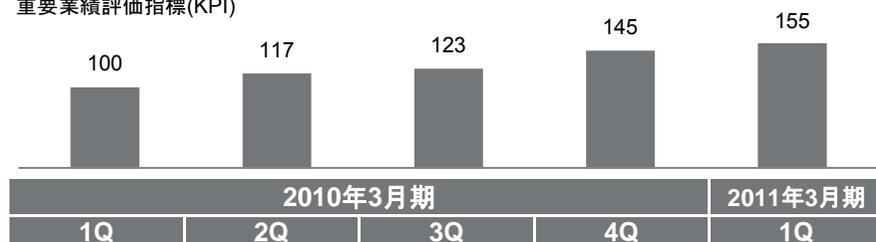
- 収益1,086億円、前四半期比36%減
- フィクスト・インカムは、スプレッドの急拡大・市場の不透明感が増したことに伴い流動性が低下、その影響で26%減収の410億円。ただし、顧客数および顧客ペネトレーションは増加
- エクイティは、米国および欧州におけるボラティリティの急上昇から39%減収の463億円
- インベストメント・バンキングは今四半期に予定された案件の一部が延期されるなどして47%減収

収益合計(金融費用控除後)、税前利益/損失

(10億円)	2010年3月期				2011年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
収益合計(金融費用控除後)	211.7	199.3	210.1	168.4	108.6
金融費用以外の費用	158.5	161.1	161.6	133.2	149.8
税前利益(損失)	53.3	38.2	48.5	35.2	-41.1
うちグローバル・マーケット					
フィクスト・インカム	105.4	76.6	70.5	55.6	41.0
エクイティ	92.8	93.4	90.1	76.5	46.3
その他	-11.1	4.6	3.2	0.9	9.2
収益合計(金融費用控除後)	187.1	174.5	163.9	133.0	96.4
金融費用以外の費用	124.9	127.8	130.8	103.0	122.8
税前利益(損失)	62.3	46.7	33.1	30.0	-26.3

グローバルマーケット顧客フローからの収益

重要業績評価指標(KPI)



決算のポイント

- 収益: 1,086億円(前四半期比35.5%減、前年同期比48.7%減)
 - 税前損失: △411億円
 - グローバル・マーケット
 - 欧州に端を発した金融市場の混乱により、クレジットスプレッドの急拡大、市場ボラティリティの急上昇の影響を受け、減収
 - 顧客フロー中心のビジネス戦略の継続により、顧客フローからの収益は続伸
 - 東京証券取引所、ロンドン証券取引所に続き、韓国、台湾などの株式取引所シェアが上昇
 - インベストメント・バンキング
 - 季節的要因に加え市場環境の悪化により減収
 - 高プロファイル案件を引き続き獲得
- ECM: 東レ・PO (主幹事) 1,063億円
 ヤマハ発動機・PO (主幹事) 779億円
- DCM: 英国国債 (ジョイント・ブックランナー) 80億ポンド
 韓国産業銀行 サムライ債 (ジョイント・リード・マネジャー) 270億円
- M&A: GrifolsによるTalecris買収のリード・ファイナンシャル・アドバイザー
 および買収ファイナンスのジョイント・リード・アレンジャー兼
 ジョイント・ブックランナー
 損保ジャパンによるトルコのフィバ シンゴルタ社買収のアドバイザー
 Carlsbergによる中国重慶ビール株式12.25%取得の単独アドバイザー

ホールセール部門(インベストメント・バンキング)

収益合計(金融費用控除後)、税前利益／損失

(10億円)	2010年3月期				2011年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
インベストメント・バンキング (グロス)	38.0	33.2	81.7	43.3	29.0
その他部門等へのアロケー ション	12.3	12.2	37.2	15.4	13.2
インベストメント・バンキング (ネット)	25.7	20.9	44.5	27.8	15.8
その他	-1.1	3.9	1.8	7.6	-3.6
収益合計(金融費用控除後)	24.6	24.8	46.2	35.5	12.2
金融費用以外の費用	33.6	33.3	30.8	30.2	27.0
税前利益 (損失)	-9.0	-8.5	15.4	5.2	-14.8

リーグテーブル¹

重要業績評価指標(KPI)

* ()内は昨年同期の順位

グローバルECM		グローバルM&A	
2009年	2010年 1-6月	2009年	2010年 1-6月
9位	9位 (10位)	15位	16位 (24位)

(注)2010年7月29日時点のグローバルECMランクは9位、グローバルM&Aランクは13位

アワード

- Thomson Reuters DealWatch
 - House of the Year (日本)
 - Equity House of the Year (日本)
- Euromoney
 - Best M&A House in Korea
- Global Finance
 - Best Debt Bank in Asia
 - Best Investment Bank in Japan
- Finance Asia
 - Best Investment Bank (日本)
 - Best Equity House (日本)

クロスボーダー案件

China Investment Corporation	Grifols	Carlsberg
リード・ファイナンシャル・アドバイザー	リード・ファイナンシャル・アドバイザー ジョイント・リード・アレンジャー ジョイント・ブックランナー	ファイナンシャル・アドバイザー
<ul style="list-style-type: none"> カナダのペンウエスト社がアルバータ州北部の油砂開発のために新設したJVIにCIC社が45%の株式を取得 ペンウエスト社の株式5%をプライベート・プレースメントにより取得 	<ul style="list-style-type: none"> スペイン製薬会社グリフォリス社による米国の製薬会社タレクリス社の買収 グリフォリス社のアドバイザーを務めるとともに、買収ファイナンスもアレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> デンマークのカールスバーグ社による中国重慶ビール社の株式12.25%取得
CAD817mm CAD435mm	US\$4,000mm US\$4,500mm	RMB2,385mm
2010年5月	2010年6月	2010年6月

1. 出所: トムソン・ロイター

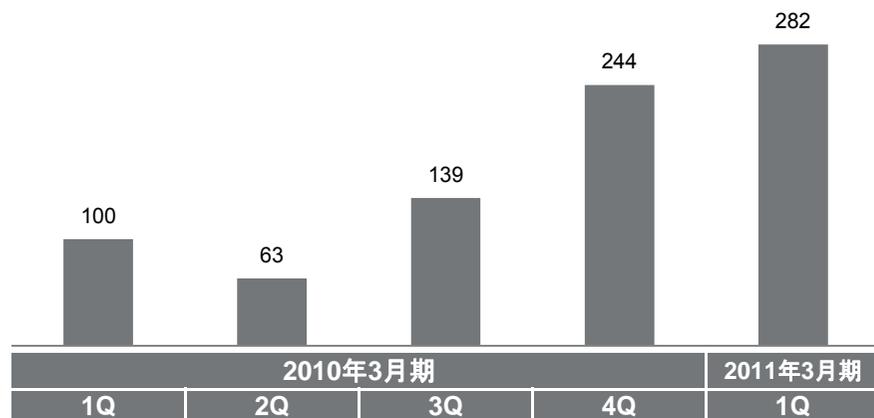
ホールセール部門：中期的に成長が期待される米国・アジアの進捗

米国

- 顧客基盤は順調に拡大
 - デリバティブ取引に必要なISDA口座開設¹は、前四半期比35%増加
- 経験豊富な人材が、業界他社より入社。米国の人員数²は、726人(2009年6月)→1,455人(2010年6月)へ増加
 - インスティテューショナル・インベスター誌の上位ランキングアナリストを含め、8名採用(金融、TMT、小売/消費等のセクター)
 - インベストメント・バンキング部門でも、シニア・バンカーを採用
- 米国プラットフォームへの投資を継続

顧客フローからの収益

(2010年3月期第1四半期を100として指数化)



アジア

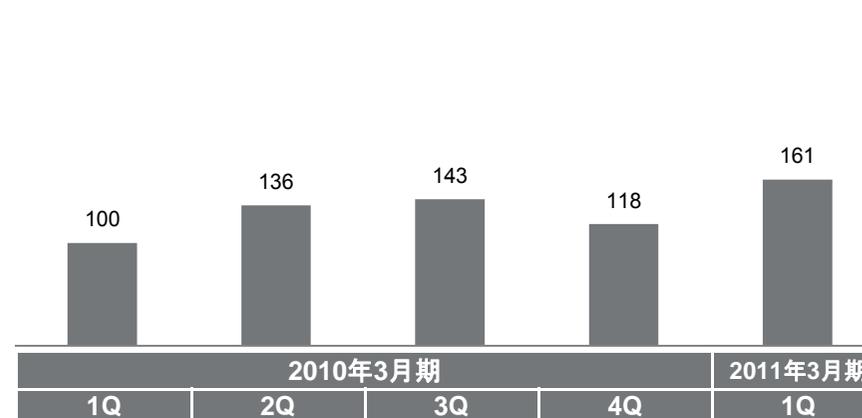
- プラットフォームの拡大
 - インドでNon-Banking Financial Companyが開業(4月30日)
 - 韓国拠点の現地法人化(5月28日)
 - ラブアン(マレーシア)にオフショア銀行設立(7月19日)
 - イスラム金融市場での資金調達
- 顧客基盤は順調に拡大
 - デリバティブ取引に必要なISDA口座開設¹は、前四半期比38%増加
- 市場での認知度の上昇
 - ファイナンス・アジア誌で、“Best FX Structured Product Award”受賞
 - インスティテューショナル・インベスター誌で、アジア・エクイティ・リサーチ部門が2位、中国調査部門が1位を受賞

FinanceAsia

Institutional Investor

顧客フローからの収益

(2010年3月期第1四半期を100として指数化)



1. リーマン統合後、新たにISDA口座開設をした重点対象顧客数を集計
 2. Instinet, NOMURA ASSET MANAGEMENT U.S.A. INC.を除く

営業部門

- 営業部門は、難しい市場環境において、前四半期比、前年同期比ともに16%増収(1,110億円)。税前利益でも前四半期比57%増益、前年同期比36%増益の377億円を達成

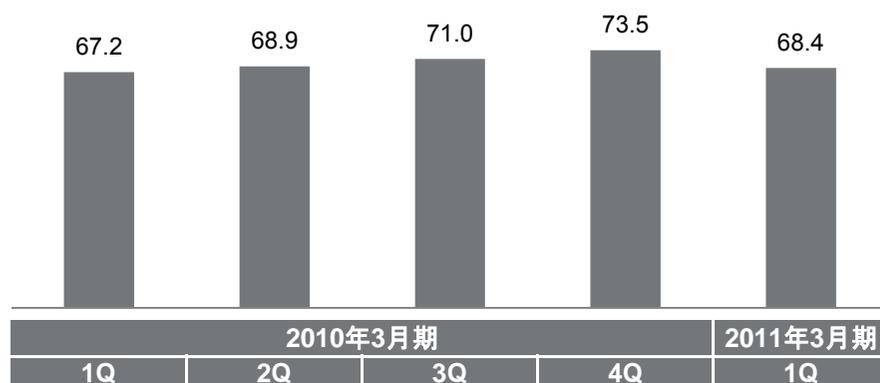
収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)

	2010年3月期				2011年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
収益合計(金融費用控除後)	95.4	93.2	104.3	95.5	111.0
金融費用以外の費用	67.5	66.8	69.1	71.5	73.2
税前利益	27.9	26.4	35.2	24.0	37.7

顧客資産残高

重要業績評価指標(KPI)
(兆円)



決算のポイント

- 収益: 1,110億円(前四半期比16.2%増、前年同期比16.3%増)
- 税前利益: 377億円(前四半期比57.4%増、前年同期比35.5%増)
- 資産の拡大
 - 資産純増 1兆2,895億円
 - 投信純増 4,381億円
- 顧客基盤
 - 預り資産 68.4兆円
 - 残あり顧客数 489.4万口座
- 主な投信販売額

野村グローバル・ハイ・イールド債券投信	7,089億円
野村クラウドコンピューティング & スマートグリッド関連株投信	1,547億円
- その他の販売状況(1Q計)

IPO、PO	1,090億円
外債販売額	4,110億円

アセット・マネジメント部門

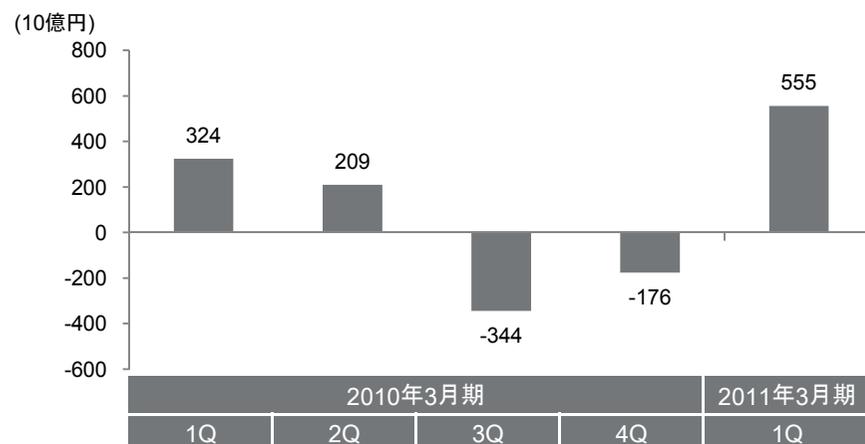
- アセット・マネジメント部門は、公募投信への順調な資金流入によって、前四半期比横ばいの181億円の収益を達成。公募投信（除くETF）への資金流入は約0.5兆円と高水準

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)

	2010年3月期				2011年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
収益合計（金融費用控除後）	18.7	16.5	17.2	18.0	18.1
金融費用以外の費用	13.5	12.0	13.2	13.1	13.2
税前利益	5.1	4.5	4.1	4.9	4.9

公募株式投信(除くETF)資金流出入¹



決算のポイント

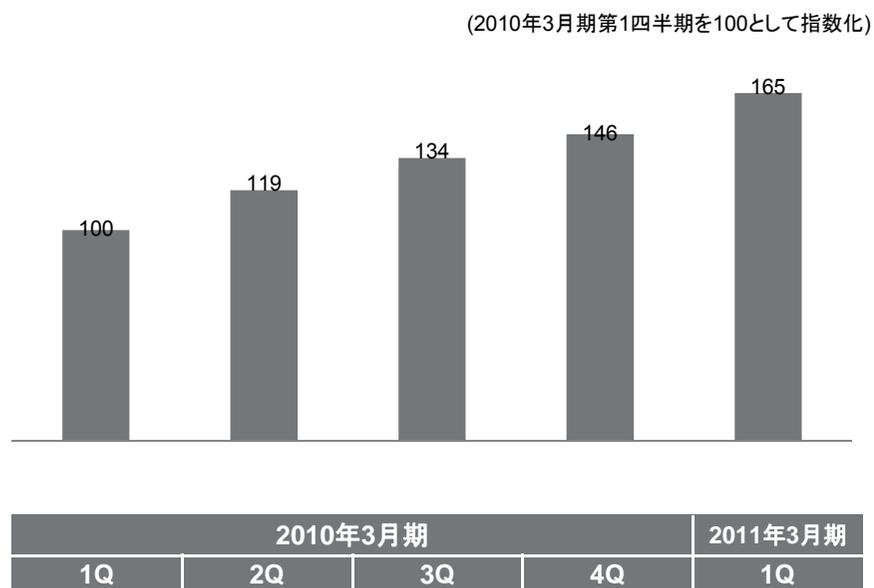
- 業績分析
 - 収益は181億円(前四半期比0.7%増、前年同期比2.8%減)
 - 税前利益は49億円(同0.2%減、同4.5%減)
- 6月末の運用資産残高は、マーケットの下落の影響で22.2兆円と、3月末の23.4兆円から約1.2兆円の減少
- 公募株式投信(除:ETF)の資金流入が約5,500億円と高水準
- 投資顧問では、海外顧客から日本株やアジア株、グローバル債券などで新規受託
- QFII制度に基づく中国証券市場(A株など)への投資枠(2億USD)を取得

1 野村アセットマネジメント単体

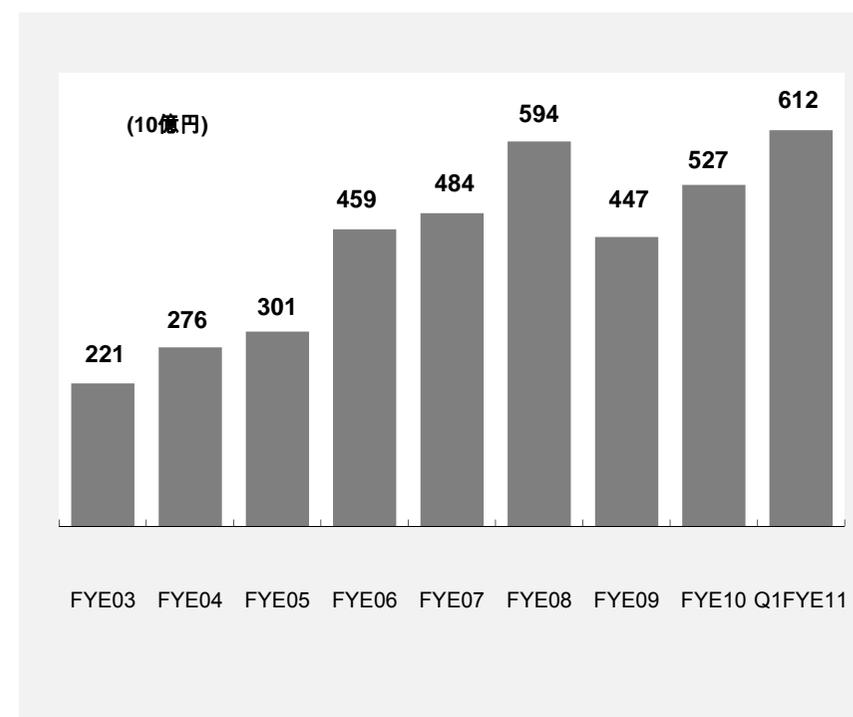
収益安定性に寄与する顧客ビジネスの成長

- グローバル・マーケットにおける顧客数拡大、フランチャイズの成長
- 営業部門およびアセット・マネジメント部門は引続き安定的なレベニュー・エンジンとして寄与。委託・投信募集手数料およびアセットマネジメント業務手数料の合計額は前年同期比16%増加。過去8年間の年平均成長率は13%超（2011年3月期第1四半期を年換算）

グローバル・マーケット: 顧客数の成長¹



委託・投信募集手数料およびアセットマネジメント業務手数料の合計額²



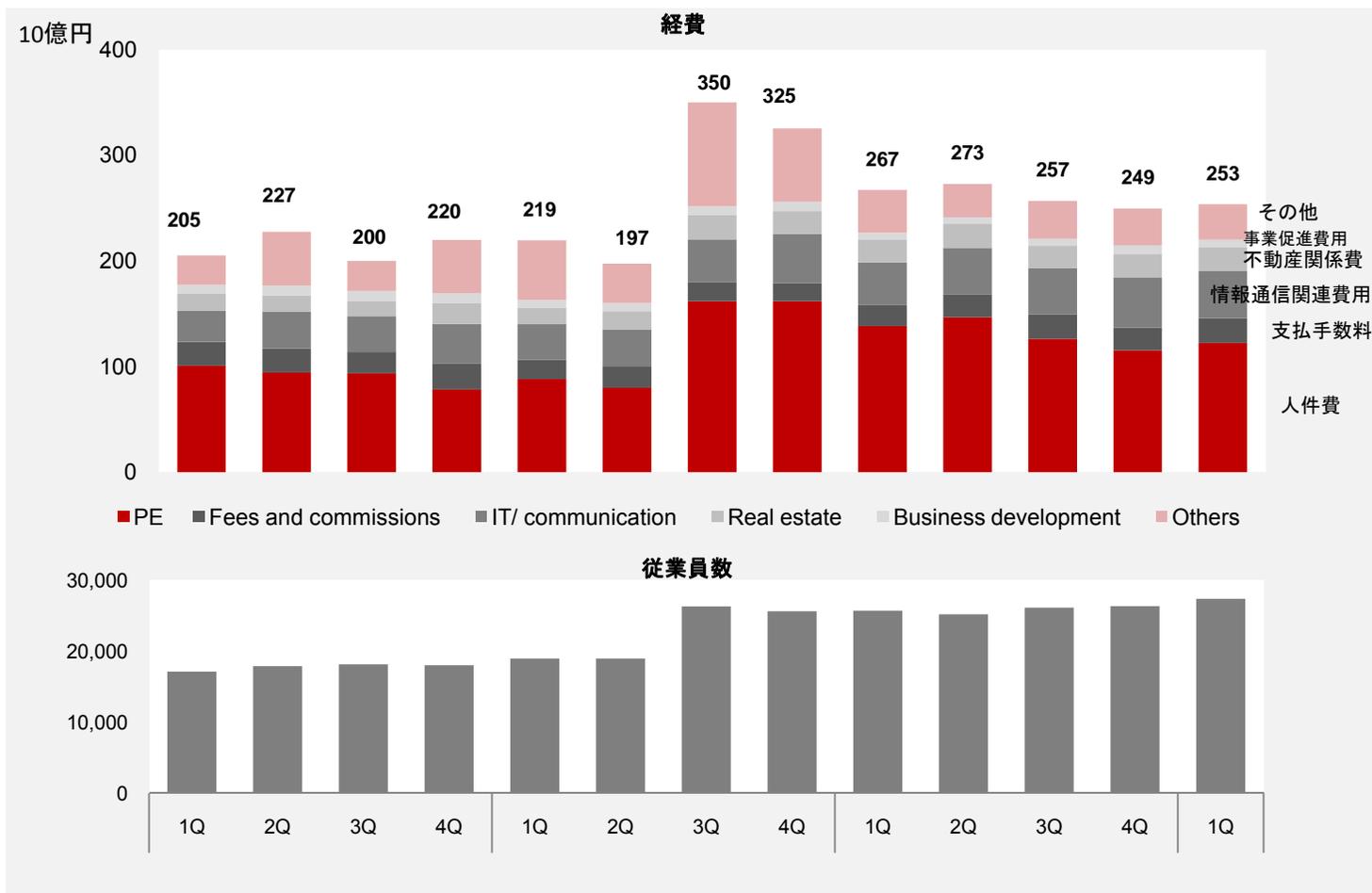
¹各四半期において取引実績のある顧客数を集計

²2011年3月期第1四半期の数値は年換算

非金融費用の推移

- 非金融費用は2009年にピークアウト、人件費の抑制もあり、その後の人員増加にもかかわらず比較的順調に減少。人件費以外の費用もインフラ投資にもかかわらず横ばい

経費内訳/従業員数



- 1 エグゼクティブ・サマリー
- 2 2011年3月期第1四半期決算の概要
- 3 資本、流動性およびリスク管理
- 4 最後に
- 5 Appendix

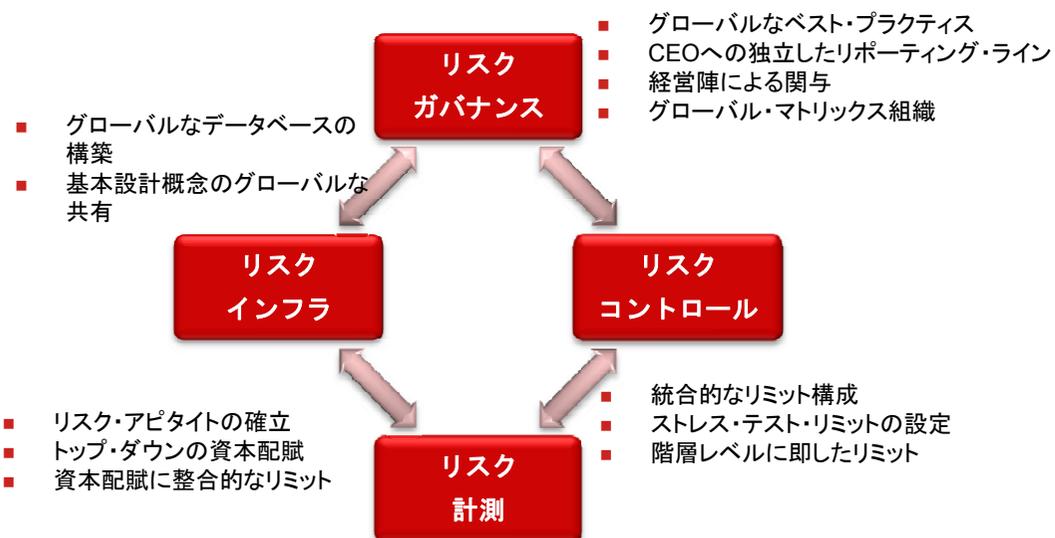
グローバルリスク／バランスシートマネジメント

- グローバル統合リスク管理会議が全社的なリスク許容度を決定。リスク許容度は経済資本により計測
- 資本の質・量の充分性、レバレッジ、流動性にフォーカス

リスク・マネジメントの枠組み： 4つの柱

BSマネジメント

[2010年6月末]



¹ ネットレベル3資産:レベル3資産からレベル3デリバティブ負債を控除

資本基盤・流動性プロファイル、バランスシートマネジメント

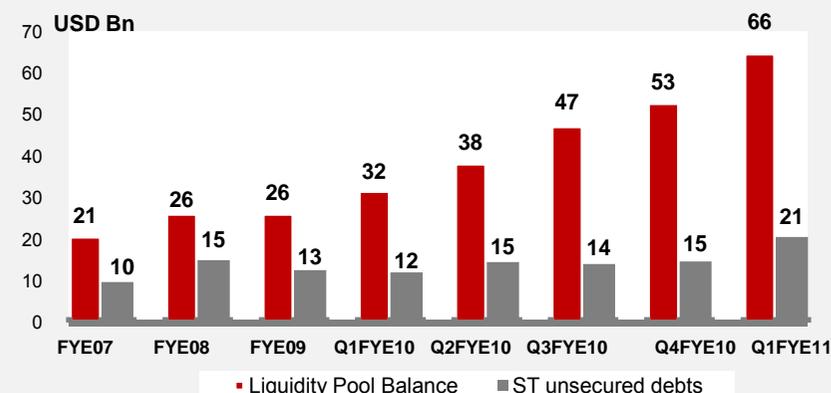
- 業界ベストクラスの資本基盤：2010年6月末現在、Tier 1 比率16.9%、自己資本比率23.3%¹
- グロス・レバレッジは十分に保守的な水準の16.1倍、ネット・レバレッジは10.1倍
- 流動性プールは前四半期比20%以上増加し660億米ドルに。ストレスを受けた市場環境下で予想される向う12ヶ月間の債務償還資金を超える資金を確保

クレジット・プロファイル：2エッセンシャルズ (2010年6月)

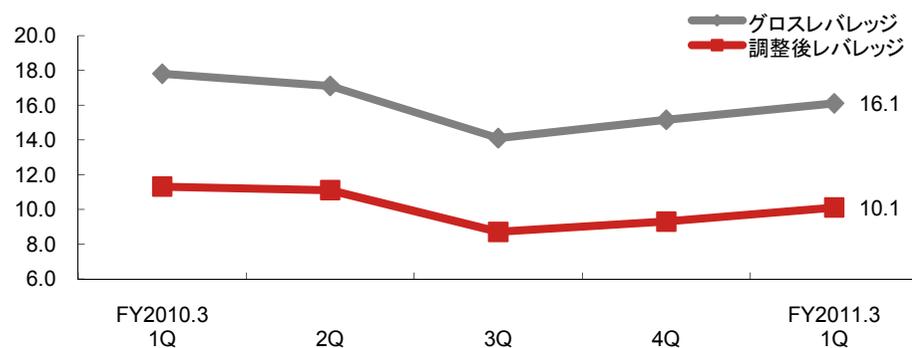
資本およびレバレッジ¹

(速報値)	3月末	6月末
Tier 1	2,000	1,986
Tier 2	560	500
Tier 3	306	306
自己資本合計	2,806	2,733
リスク調整後資産	11,525	11,699
Tier 1 比率	17.3%	16.9%
Tier 1 コモン比率 ³	17.3%	16.8%
自己資本比率	24.3%	23.3%

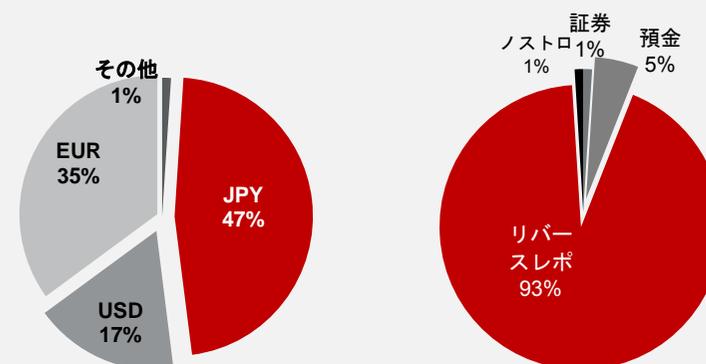
流動性プールバランス¹



グロスレバレッジおよび調整後レバレッジ¹



流動性プール：通貨/商品¹

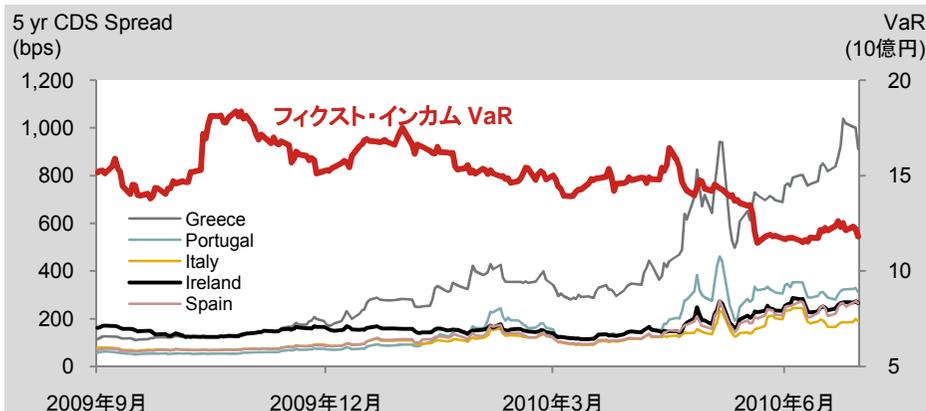


1. レビュー前の暫定数値。流動性プールは流動性管理の観点に基づくもので財務諸表の定義と異なる。ST unsecured debtsは財務ベース
 2. Tier 1 コモン比率: Tier 1 資本 - ハイブリッド資本 - 非支配持分

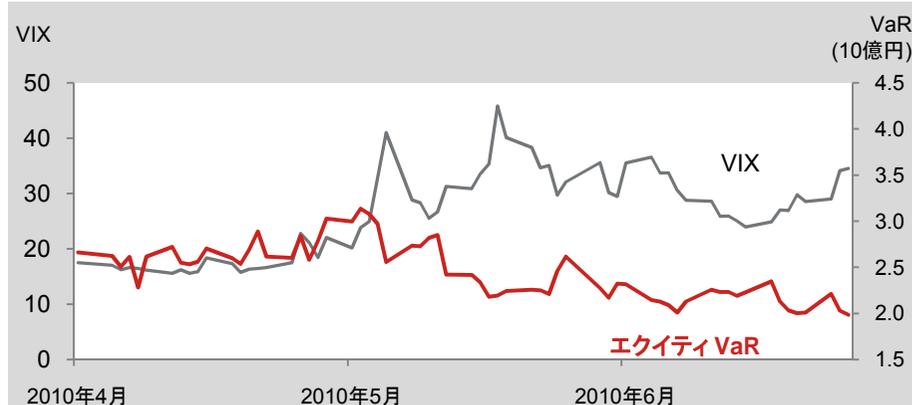
マーケット・信用リスク

- マーケットの急激なボラティリティ上昇を受けて積極的にマーケットリスク量(トレーディングVaR)を縮小
- デリバティブのカウンター・パーティ信用リスクエクスポージャーは引続き保守的なプロファイルを維持—無担保のマーケット・トゥー・マーケット・エクスポージャーの90%近くは投資適格ゾーン (2010年3月末現在)

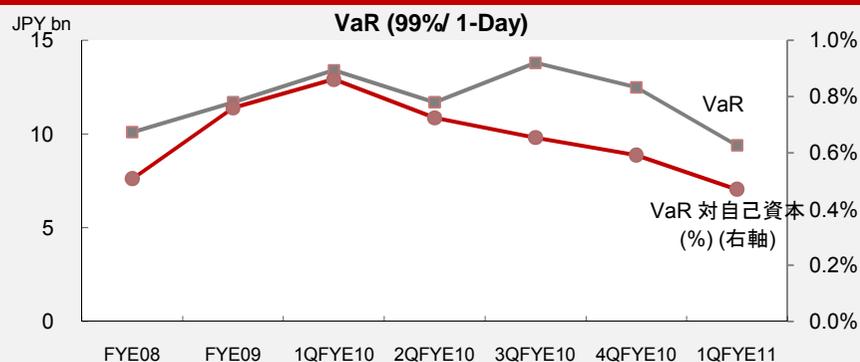
GIIPS各国のCDSスプレッドと当社フィクスト・インカムのVaR



VIX¹と当社エクイティのVaR

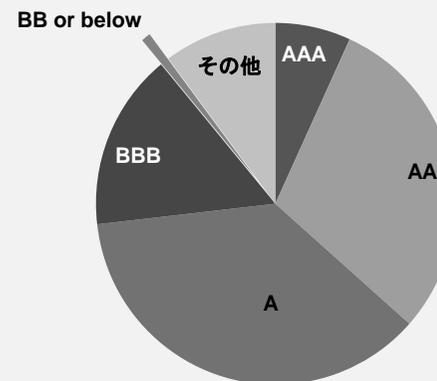


VaR



トータルVaRは分散効果を勘案

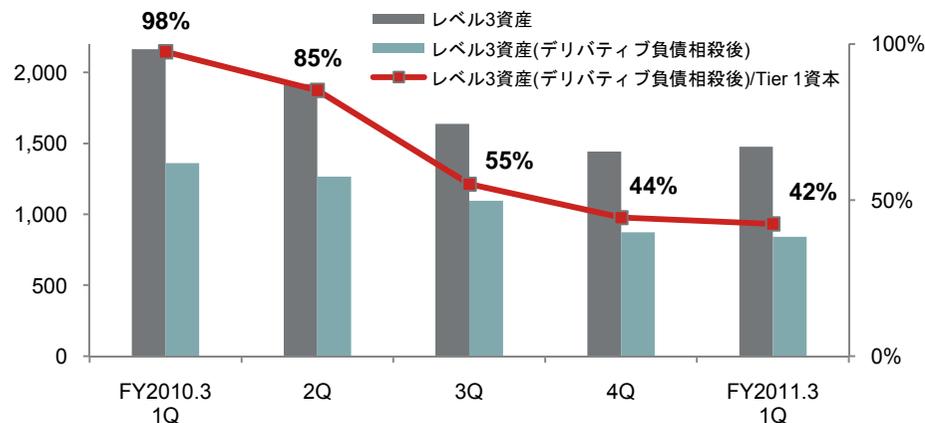
デリバティブ/カウンターパーティの格付分布²



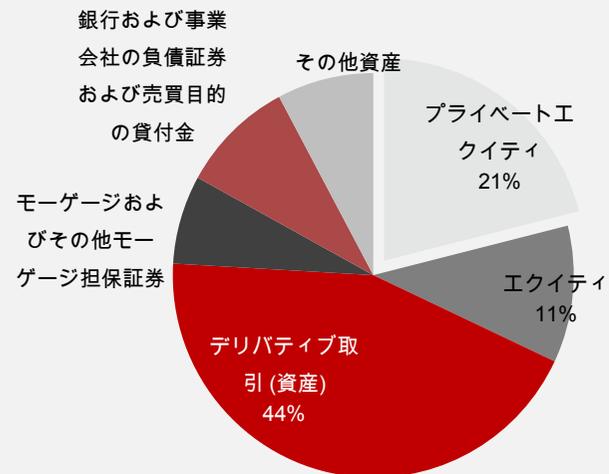
1. VIX=Volatility Index、シカゴ・オプション取引所(CBOE)がS&P500を対象とするオプション取引のボラティリティを元に算出、公表している指数。出所:ブルームバーグ。
 2. 再構築コストベース(担保勘案後の簿価ベース)。「その他」は格付なし先も含み、必ずしも非投資適格を意味するものではない

レベル3資産

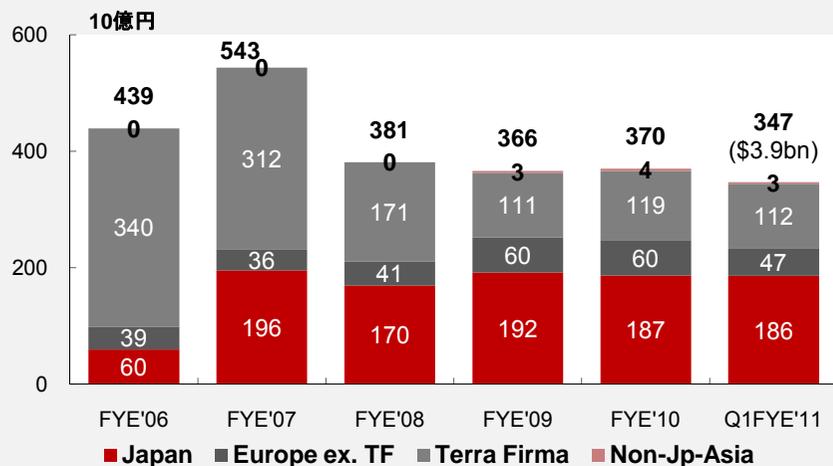
レベル3資産の推移と対Tier 1資本比率¹



レベル3資産内訳 (2010年6月)^{1,2}



プライベート・エクイティ資産³



コメント

- 2010年6月末のグロス・レベル3資産残高は前四半期比概ね横ばいとなる約1.5兆円
- レベル3デリバティブ負債とのネットベースでは約8,410億円
- Tier1資本対比で42%に縮小
- ネット・レベル3資産の最大の要素であるプライベート・エクイティ投資は引き続き慎重にマネージあるいは投資からのエクジットを図る
- 引き続きレベル3資産ないし低流動資産を注意深く管理

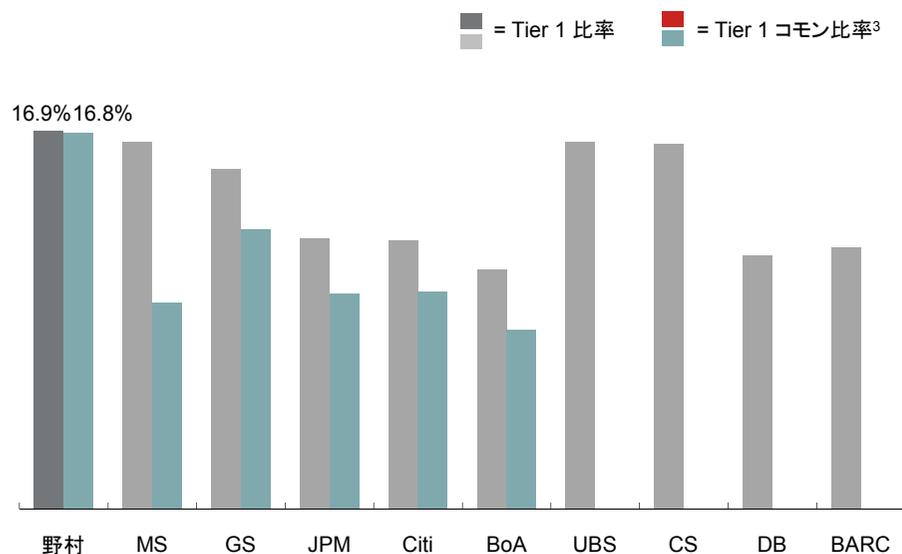
1. レビュー前の暫定数値。ネットレベル3資産はレベル3デリバティブ負債控除後

2. グロスベース欧州の残高(テラ・ファーマ除く)はPrivate Equity Group (PEG) 及びNomura Phase4 Ventures (NPV) 等の合計

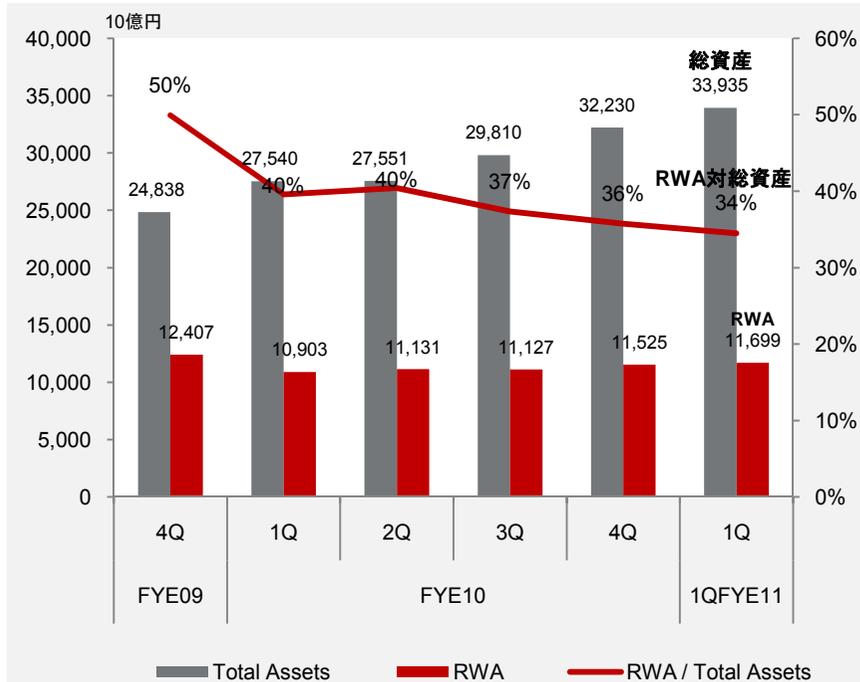
資本: 高い資本の質・規律あるバランスシートの成長

- Tier 1資本は金融危機前から約40%増加、資本のほとんど全てが質の高い普通株資本
- バランスシートの成長は、主にリバース・レポなどの担保付取引やトレーディング勘定の増加によるもの、総資産は2009年3月末からおよそ36%増加したのに対し、リスク調整後資産は逆に6%減少

Tier 1 資本 / リスク調整後資産^{1,2,3}



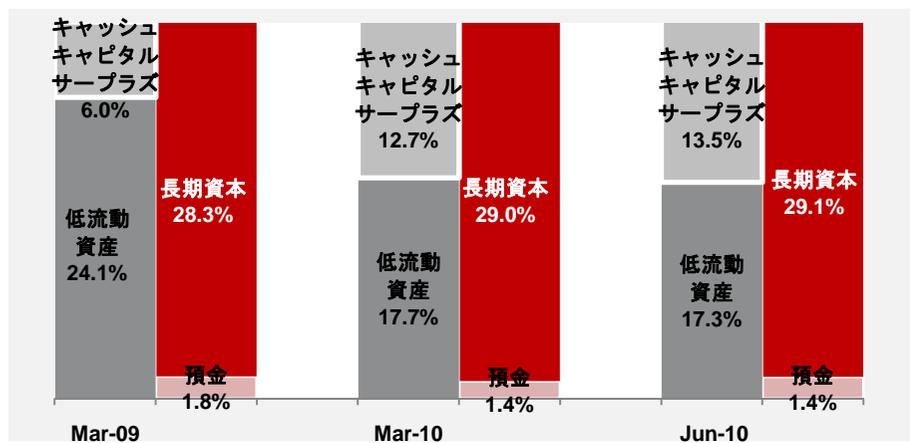
リスク調整後資産(RWA) 対 総資産¹



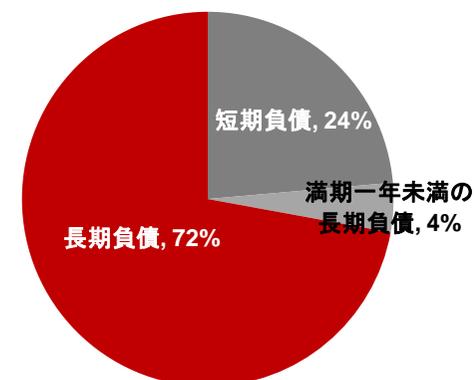
(1) レベル3資産の数値はレビュー前の暫定数値
 (2) 6月末現在、但しBarclaysは3月末現在
 (3) Tier 1 コモン比率: Tier 1 資本 - ハイブリッド資本 - 非支配持分

流動性・調達：安定的な負債構造

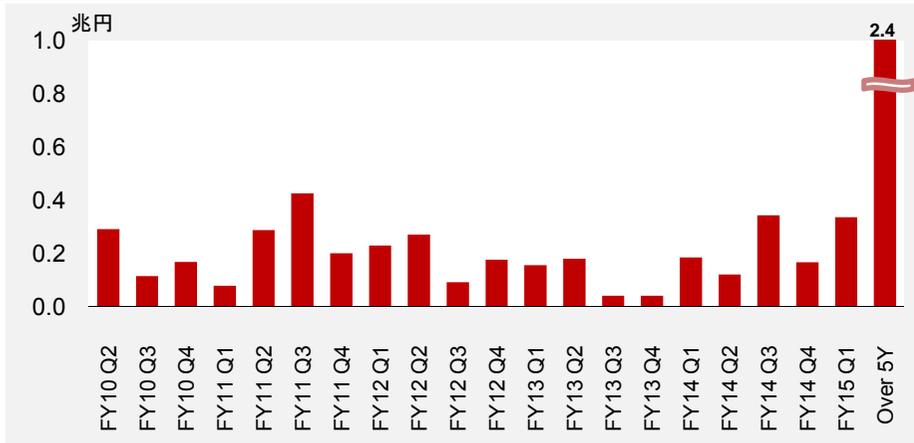
強固なキャッシュキャピタル構造¹



アンセキュアード・ファンディング詳細²



滑らかな償還プロフィール³



コメント

- 強固なキャッシュ・キャピタル水準：長期資本基盤は、資産サイドの低流動性ポジションを大幅に超過
- 償還まで一年超の長期負債の平均残存期間は6年超
- スムースな償還期限の分布は再調達リスクの極小化
- 市場・通貨毎に分散化してきている調達源は、資産負債の通貨ミスマッチを縮小

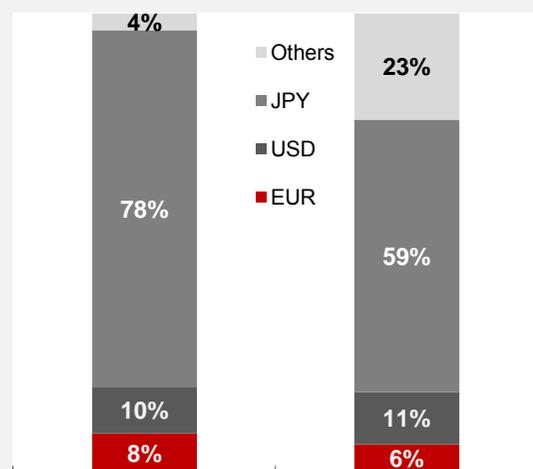
1. 総資産対比 (%) で表示。低流動性資産：その他資産、ローン、顧客・取引相手等からの受取債権以外の受取債権、レベル3資産等、トレーディング資産のヘアカット (10%) 相当分、等
 2. 流動性管理の視点に基づくもので財務諸表上の定義と異なる。当初の満期に基づく
 3. 償還スケジュールはストレスシナリオでも早期償還確率を織込む

流動性・調達 (続き): 分散・安定した資金調達源

- 日本における調達ソースは適正に分散化、一方でさらなる通貨・市場の分散化を図り、調達の柔軟性・コスト効率性や安定性を高めるため以下の施策をとる
 - ・ 前年度に米ドル、ユーロ、英ポンド建て社債を発行、各通貨でのクレジット・カーブ構築をはかる
- 2011年3月期第1四半期では、安定的なアジア市場を活用
 - ・ 日本国内で約1,300億円の長期社債（含む10年債・15年債）を発行
 - ・ 約1,000億円相当の4年物ニュージーランド・ドル債・豪ドル債を発行
 - ・ イスラム金融へ進出 — 日本企業によるマレーシアにおける初めての米ドル建てイスラム債となる1億米ドルのスクーク債（イスラム金融の一形態）を発行(2010年7月)。また70百万米ドルの「コモディティ・ムラバハ」ファシリティをクローリング（2010年7月）

長期調達 (2010年6月)

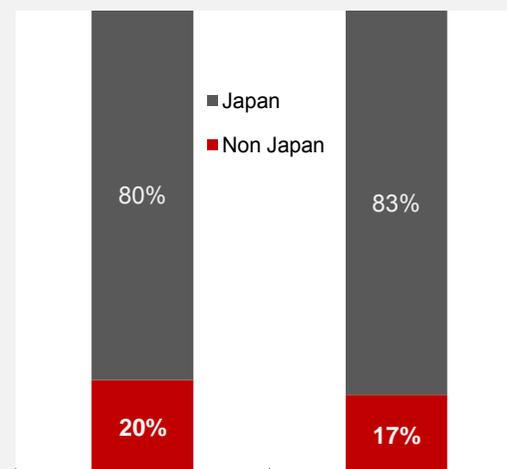
通貨構成



Outstanding (as of Jun 2010)

YTD

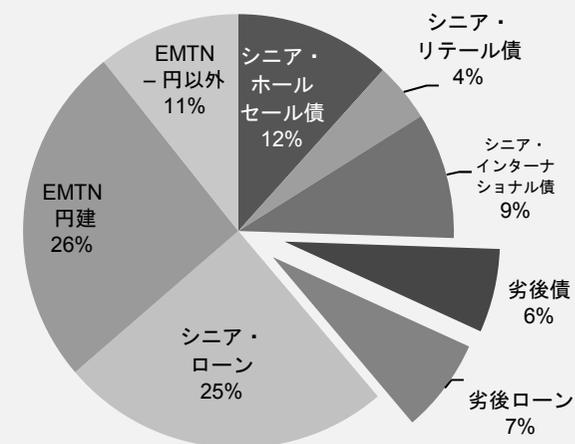
地域構成



Outstanding (as of Jun 2010)

YTD

商品構成



- 1 エグゼクティブ・サマリー
- 2 2011年3月期第1四半期決算の概要
- 3 資本、流動性およびリスク管理
- 4 **最後に**
- 5 Appendix

最後に

- **世界クラスの投資銀行を目指すため、引続きグローバル戦略を遂行**
 - 困難な市場環境やグローバルなプラットフォーム構築のための継続的な投資にかかわらず5四半期連続の黒字を確保
 - ホールセール部門の成長を支える主導的地位にあって安定的な収益を生み出す営業部門およびアセット・マネジメント部門
 - 世界第二位のフィー・プールを持つ日本の資本市場における重要性（主要なマーケットで主導的地位）
- **強固で流動性の高いバランスシートにより顧客への流動性供給者としてのキャパシティを確保**
 - Tier1資本比率は16.9%（ほぼ全額が普通株で構成）
 - 十分に保守的なグロス・レバレッジ水準（16.1倍）、総資産の約47%はトレーディング資産
 - 約660億米ドルの流動性プールは記録的な高水準、バランスシートの成長に合わせて高水準を維持
 - レベル3資産のTier1資本に対する比率は業界内でも保守的な水準を維持
- **分散化され安定的な調達構造**
 - 信頼性の高い国内の調達環境による下支え
 - 日本銀行のファシリティへのアクセス：様々な担保資産の見合いで日常的なオペレーションや緊急融資等のファシリティを利用可能
- **規律あるリスク管理フレームワーク**
 - アクティブなリスク管理によりリスクエクスポージャーを削減し、ソブリン危機によるテールリスクを抑制
 - 引続きシニアなリスクマネージャーを新たに外部から採用し、リスク管理手法やシステム・分析能力を強化

- 1 エグゼクティブ・サマリー
- 2 2011年3月期第1四半期決算の概要
- 3 資本、流動性およびリスク管理
- 4 最後に
- 5 Appendix

バランスシート関連データ

連結貸借対照表

(単位：10億円)

	2010年 3月末	2010年 6月末	前期比増減		2010年 3月末	2010年 6月末	前期比増減
資産				負債			
現金・預金	1,352	1,048	-304	短期借入	1,302	1,822	520
				支払債務および受入預金	1,528	1,462	-67
貸付金および受取債権	2,072	1,972	-100	担保付調達	11,216	12,290	1,073
				トレーディング負債	8,357	8,143	-214
担保付契約	12,467	12,762	295	その他の負債	495	354	-141
				長期借入	7,199	7,753	554
トレーディング資産および プライベート・エクイティ投資*	14,700	16,402	1,702	負債合計	30,097	31,823	1,726
その他の資産	1,639	1,751	112	資本			
				野村ホールディングス株主資本合計	2,127	2,102	-25
資産合計	32,230	33,935	1,705	非支配持分	6	10	4
				負債および資本合計	32,230	33,935	1,705

*担保差入有価証券を含む

連結損益

(単位:10億円)

	2006年 3月期	2007年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2010年3月期				2011年3月期	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
収益											
委託・投信募集手数料	356.3	337.5	404.7	306.8	395.1	102.0	95.4	101.0	96.6	118.1	
投資銀行業務手数料	108.8	99.3	85.1	55.0	121.3	29.7	15.6	44.5	31.4	20.4	
アセットマネジメント業務手数料	102.7	146.0	189.7	140.2	132.2	30.3	34.0	34.2	33.7	34.9	
トレーディング損益	304.2	290.0	61.7	-128.3	417.4	121.1	148.5	66.5	81.3	60.0	
プライベート・エクイティ投資関連損益	12.3	47.6	76.5	-54.8	11.9	-2.1	2.0	2.3	9.7	-0.9	
金融収益	693.8	981.3	796.5	331.4	235.3	58.4	53.6	67.4	55.9	75.8	
投資持分証券関連損益	67.7	-20.1	-48.7	-25.5	6.0	9.8	-2.3	-3.8	2.4	-10.3	
プライベート・エクイティ投資先企業売上高	88.2	100.1	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	58.8	67.4	28.2	39.9	37.5	14.3	8.7	9.4	5.2	16.3	
収益合計	1,792.8	2,049.1	1,593.7	664.5	1,356.8	363.6	355.5	321.6	316.1	314.0	
金融費用	647.2	958.0	806.5	351.9	205.9	65.2	55.4	47.1	38.2	54.2	
収益合計(金融費用控除後)	1,145.7	1,091.1	787.3	312.6	1,150.8	298.4	300.0	274.5	277.9	259.8	
金融費用以外の費用	693.7	772.6	852.2	1,092.9	1,045.6	266.9	272.7	256.6	249.3	253.4	
税引前当期純利益(損失)(継続事業)	452.0	318.5	-64.9	-780.3	105.2	31.4	27.3	18.0	28.6	6.5	
税引前当期純利益(非継続事業)	99.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
税引前当期純利益(損失)	551.4	318.5	-64.9	-780.3	105.2	31.4	27.3	18.0	28.6	6.5	
野村ホールディングス株主に帰属する 当期純利益(損失)(継続事業)	256.6	175.8	-67.8	-708.2	67.8	11.4	27.7	10.2	18.4	3.0	
野村ホールディングス株主に帰属する 当期純利益(非継続事業)	47.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
野村ホールディングス株主に帰属する 当期純利益(損失)	304.3	175.8	-67.8	-708.2	67.8	11.4	27.7	10.2	18.4	2.3	

注:当期の開示様式に合わせて過年度の数値を組み替えて表示しております。

格付

	S&P	Moody's	R&I	JCR
2010年7月30日現在				
Nomura Holdings, Inc.				
Long-term	BBB+	Baa2	A+	AA-
Short-term	A-2	-	a-1	-
Outlook	Stable	Stable	Stable	Stable
Nomura Securities Co., Ltd.				
Long-term	A-	Baa1	A+	AA-
Short-term	A-2	P-2	a-1	-
Outlook	Stable	Stable	Stable	Stable
The Nomura Trust & Banking Co., Ltd.				
Long-term	A-	-	-	AA-
Short-term	A-2	-	a-1	-
Outlook	Stable	-	-	Stable
Nomura Bank International plc				
Long-term	A-	-	-	AA-
Short-term	A-2	-	-	-
Outlook	Stable	-	-	Stable

グローバル・リーチ

- 2008年のリーマン欧州およびアジアの承継後の米州におけるオーガニックグロースにより、世界各地にフットプリント確立

Global presence

Europe and Middle East



Asia-Pacific



Americas

